

夏はもうすぐ！市内プールがオープンします

名称		菊池市営菊池プール	菊池市泗水B＆G 海洋センタープール	菊池市旭志B＆G 海洋センタープール
期間		6月1日（月） ～9月13日（日）	6月2日（火） ～9月15日（火） 夜間は7月1日（水）～	6月2日（火） ～9月15日（火）
開場時間	午前	午前9時～正午	午前9時～正午	午前9時～正午
	午後	午後1時～午後6時	午後1時～午後5時	午後1時～午後5時
	夜間	×	午後6時～午後9時	午後6時～午後9時
休館日		なし ただし、夏休みの期間中以外の月～金の小学生の入場は保護者の同伴が必要	夏休み期間中休館日なし 上記以外毎週月曜・第3日曜	毎週月曜
問い合わせ先		社会体育課 ☎（25）7234	泗水分室教育課 ☎（38）2258	旭志分室教育課 ☎（37）3111

※講座開設のため使用できない時間帯があります。詳しくは、各問い合わせ先で確認してください。

「水泳教室」生徒募集

対象者 市内末就学児（年中・年長に限る）

とき 6月18日～7月23日の毎週木曜日で全6回、午後2時30分～午後3時30分

ところ 泗水B＆G 海洋センタープール

申込期限 6月15日（月）

内容 水慣れ、顔つけ、もぐる、泳ぐ

参加費 1,000円

募集人員 20人（先着順）

指導員 文部科学省認定コーチ 坂田はるみ

問い合わせ・申込先 泗水分室教育課

菊池スイミングスクール生徒募集

菊池市水泳協会では、菊池市に在住する幼児から小学生（4～12歳）までを対象に、水泳指導を通じて体力の向上と心身一体となった健全育成を目指し、菊池市スイミングスクールの開校します。

練習日 火・土曜日（週2回）

練習時間 6月22日（火）～9月13日（日） 午後5時20分～午後6時30分



菊池市水泳協会では、菊池市に在住する幼児から小学生（4～12歳）までを対象に、水泳指導を通じて体力の向上と心身一体となった健全育成を目指し、菊池市スイミングスクールの開校します。

練習日 火・土曜日（週2回）

練習時間 6月22日（火）～9月13日（日） 午後5時20分～午後6時30分

「水泳教室」生徒募集

対象者 市内末就学児（年中・年長に限る）

とき 6月18日～7月23日の毎週木曜日で全6回、午後2時30分～午後3時30分

ところ 泗水B＆G 海洋センタープール

申込期限 6月15日（月）

内容 水慣れ、顔つけ、もぐる、泳ぐ

参加費 1,000円

募集人員 20人（先着順）

指導員 文部科学省認定コーチ 坂田はるみ

問い合わせ・申込先 泗水分室教育課

菊池スイミングスクール生徒募集

菊池市水泳協会では、菊池市に在住する幼児から小学生（4～12歳）までを対象に、水泳指導を通じて体力の向上と心身一体となった健全育成を目指し、菊池市スイミングスクールの開校します。

練習日 火・土曜日（週2回）

練習時間 6月22日（火）～9月13日（日） 午後5時20分～午後6時30分

第3回科学の祭典in菊池

菊池の子どもたちへ科学・理科のおもしろさや楽しさを広めるため、園児、小中学生を対象とした科学の祭典を開催します。

おもしろい実験やスライムなど作って遊べるおもちゃをたくさん用意しています。

とき 7月19日（日）午前10時～午後3時

ところ 菊池体育センター（旧勤労者体育館）

問い合わせ先 隈府小学校（川田）☎（25）2197

プールの監視員を募集します

教育委員会社会体育課では、プール監視員を次のとおり募集します。

○菊池市営七城北プール

期間 7月18日（土）～8月25日（火）のシフト制（勤務日は応相談）

募集人員 6人程度（18歳以上の男女）

履歴書を持参の上、6月30日（火）までに教育委員会社会体育課へ申し込んでください。

問い合わせ先 教育委員会社会体育課

弥生湖「茂賀の浦」

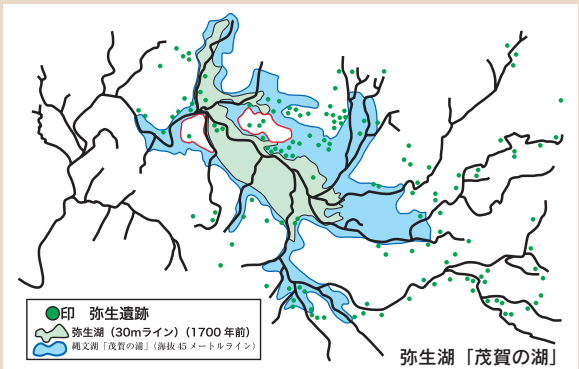
①「茂賀の浦」の変遷

縄文時代の「茂賀の浦」が海拔45mラインの湖岸段丘（低位段丘）で囲まれることは、先月号で紹介したように堤 克彦先生との共同研究で判明した。その後、堤 克彦先生に再度促されて弥生時代の湖水の範囲を線引きしてみた。それに、堤 克彦先生から弥生遺跡を打ち込んでいただいた。それを見て、また、びっくりしたことは、弥生湖「茂賀の浦」と弥生遺跡が一致することである。弥生湖「茂賀の浦」の地図に弥生遺跡を打ち込んだものが下図の通りである。一部に「一致しないところ」（山鹿市南島および石付近）は、現在その原因を調べているが、地盤沈下が関係していると考えられる。

②湖水の流失

「茂賀の浦」の水位と湖の範囲は、山鹿市志々岐台地の地盤の動きと関連している。現在の菊池川は、山鹿市鍋田から志々岐台地の北側を迂回して流れているが、縄文時代は、鍋田と涅槃岩の間は、阿蘇火砕流堆積物で塞がれていて、「茂賀の浦」の溢れた水は、山鹿市長岩と下岩原を結ぶ線（図内赤線）を流れていたと考えられる。ところが、弥生時代の初期、吉田川断層により鍋田―涅槃岩間の岩が崩れて、「茂賀の浦」の水がドツと流れ出し始めた。（健磐龍尊の蹴破伝説がある）

水が引くと、菊池盆地は、稲作の条件を備えた絶好の開発地域となったであろう。大陸の稲作文明を携えた移動民は、菊池盆地の広大な湿地風景に感動した（文責）熊本地学芸員 中原 英



人権同和教育シリーズ④ 前地域人権教育指導員 松永親之

人権教育に向き合って

「平和の無いところには人権は無く、人権の無いところには平和は無い」ということが世界の共通認識である。我々は日本国憲法の精神を守り、守られてこそ社会の秩序が守られ、安心した暮らしができるが、身のまわりには規範意識の欠如からさまざまな人権無視、人権侵害などのルール違反行為が後を絶たない。

中でも日本固有の同和教育は、解決の方向にあるものの解決には至っていない。人は生活環境の中で育ちがあり、無意識のうちに人の噂話を鵜呑みにしたり、外見で決めつけたりするようになっている。予断と偏見が言葉、行動、態度に表れ、大変な間違いをしたり、人を深く傷つけたりすることがある。踏みつけられた人は深く傷つき一生消えることはない。

これまで、行政、学校、そして地域の人々からの、現状と課題についての話を耳を傾けてきた。皆さんそれぞれの立場で、さまざまな人権問題に対して真

正面に向き合う様子に接し、自分が井の中の蛙に思えた。まわりのしがらみに流され、固定観念に縛られ、何の疑いもなく暮らし続けて、人権感覚の力ケラも無いことに気づかされた。

現実、目を向けると格差社会が広がり、人々の不平不満が社会的弱者に向けられる。さまざまな分野で、弱者切捨て、人権侵害、差別事象が後を絶たない中、自分と無関係を装うことが差別を残す原因に思えてならない。権利は声にしていかないと。社会も人も現状は変わらない。口先では正義感の塊のような人が、自分のことになると正義も常識も疑いたくなるような事が少なくない。口先だけのポーズがさまざまな人権問題の解決を遅らせ、子どもたちの正義感までゆがめていることがある。差別は罪悪であるということは誰でも言えるが、中途半端の理解は差別の予備軍に思えてならない。物事を理解し認識することは意識の変革と行動が伴わなければならないと感じている。

人権問題は見よつとしなければ見えないし、さまざまな人の話に耳を傾けることが何よりの学習に思える。学習しないと差別は見えないし、差別がいかなることか分からない。学習してこそ、様々な潜在的な人権問題

の事態が見えてくると実感した。そして差別が見えない無知ほど恐ろしいものはないと思えた。

人権教育は人間の蛮性を打ち砕き、人間性を育む人づくりである。人は一人一人違って当たり前であり、違いを認め合い、人と人の間に垣根の無い人権尊重社会の実現を目指して、これからも人権教育にこだわりたいし、これまで人権教育に向き合えたことを、私は誇りに思っている。

西洋の言葉に「固定観念に縛られた人はこのろの錆である」とあり、過去に縛られた生き方は哀れな生き方に見える。人権教育はこのろの洗濯、不安から解放に繋がり、自己確立、自己防衛の生き方を目指す人間が人間であるための人間教育であると考えている。

